

今後の航空保安システム整備に係る主な論点(素案)

1 ニアミス事故再発防止を含む航空の安全の確保

- (1) ヒューマンエラーの発生を抑制するためには、航空保安システムにどのような機能を持たせればよいか。また、どのような点に配慮すればよいか。
- (2) ヒューマンエラーの発生を抑制するためには、航空保安要員に対する訓練・研修体制をどのように構築すればよいか。
- (3) いわゆる”ヒヤリ・ハット”を安全対策に反映させるにはどのような点を考慮すればよいか。
- (4) 航空交通の安全を確保するため、機上装置の向上等に伴い運航者はどのような情報を必要としているのか、航空保安要員と運航者はどのように連携を図っていけばよいか。

2 次世代システムによる航空交通容量の拡大等

- (1) 航空交通の安全性を確保しつつ、航空交通需要の増大に応えるためには、どのようなシステム等を構築すればよいか。
- (2) 多様化するユーザーニーズに的確に応えるとともに、航空交通の安全性、信頼性等をさらに向上させるためには、どのようなシステム等を新たに構築すればよいか。

3 空域・航空路の再編等による運航効率の向上

- (1) 航空交通需要の増大が見込まれる中、長期的な視点に立ち、効率的、経済的かつ柔軟な飛行が可能となるには、空域、航空路をどのように設定し、また運航者が必要とする情報の収集、提供等をどのようにすればよいか。
- (2) これらを可能とするためには航空保安システム等における対応をどのように進めればよいか。

4 テロ対策を含む危機管理

- (1) 米国で発生した同時多発テロ事件のような不測の事態が発生した場合には、どのように対応すればよいか。

- (2) 震災等により、洋上管制機関等が完全に機能を喪失した場合には、どのように対応すればよいか。
- (3) 米国が管理するGPSが短期的、中・長期的に使用できなくなった場合には、どのように対応すればよいか。

5 航空保安業務の効率性の向上

- (1) 航空保安業務において、更に業務の効率化を図るための手法やシステムはどのように構築すればよいか。
- (2) 効率的な整備が求められる中、次世代航空保安システムへの移行期間における現行の航空保安システムの維持(縮退を含む。)はどのようにすればよいか。

6 国際貢献

全世界が次世代の航空保安体制に移行する中で、今後、我が国はアジア太平洋地域等でどのような貢献を実施すればよいか。

7 小型航空機における安全の確保、利便性、効率性の向上

- (1) 零細企業や個人の所有が多くを占める小型航空機の安全性を向上させるには、どのように対応すればよいか。
- (2) 効率性重視の観点から大型航空機が優先される中で、小型航空機の利便性や効率性に係るニーズにどのように対応すればよいか。
- (3) 安全の確保を前提としたVFR機とIFR機が共存・共生できる環境はいかなるものか。